

# 「坊主丸儲け」は本当？

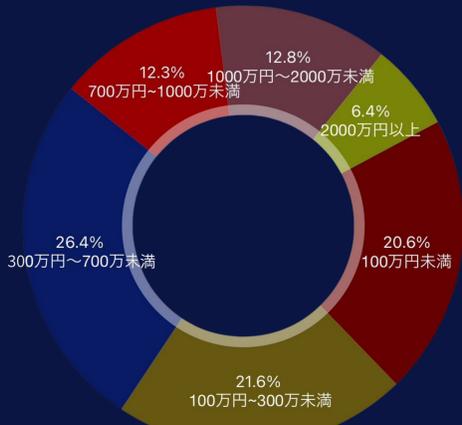
訪日観光客の増加とともに、観光地としてもにぎわいを見せる寺院。  
寺院に対しては、「税金は優遇されるし、事業の生産設備も不要だから丸儲け」というイメージを持つ人も少なくないだろう。  
しかし、本当に「丸儲け」なのだろうか？ 現役住職への取材から、厳しい寺院経営の実態が見えてきた。

お寺を取り巻く環境

- ・後継者問題
- ・檀家数の問題
- ・少子高齢化
- ・宗教教育不足

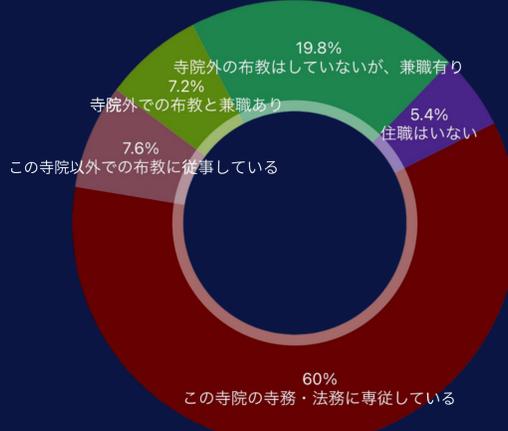
## 経営難に陥る寺院

2021年7月1日時点における  
寺院の年間平均収入



「第十一回宗勢基本調査 中間報告 (単独集計) (浄土真宗本願寺派) (http://jz-soken.jp/files/shuho/shuho\_2201\_21-79.pdf) をもとに作成

2021年7月1日時点における  
寺院の寺務・法務以外の仕事の有無



「第十一回宗勢基本調査 中間報告 (単独集計) (浄土真宗本願寺派) (http://jz-soken.jp/files/shuho/shuho\_2201\_21-79.pdf) をもとに作成

平成 26 年 77,342 → 令和 5 年 76,563

**-799**

日本全国の寺院数

文化庁『宗教年鑑』(平成 26 年から令和 5 年)

## 寺院の歴史の変遷

### 廃仏毀釈

廃仏毀釈とは、幕末から明治 9 年頃にかけて全国的に実施された仏教弾圧のことを指す。多くの寺院が廃寺となり、仏像などが破壊された。江戸時代には 9 万ヶ寺あった寺院が、廃仏毀釈によって半分の 4 万 5000 ヶ寺ほどになったと言われている。廃仏毀釈が完全に終息するのは 1876 (明治 9) 年頃となった。(鶴岡、発行年不明)

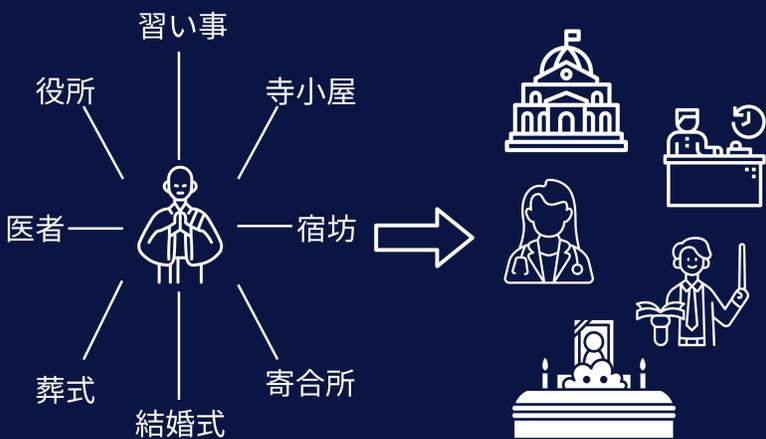
### 新型コロナウイルス

一般社団法人 良いお寺研究会の調べでは、仏教界全体 (寺院数約 7 万 7000 カ寺) の総収入は、コロナ禍前は約 5700 億円だったが、2020 年は約 2700 億円に減った。曹洞宗が昨年 6 月に発表した「コロナ影響調査」では 79% の寺院が、浄土宗の同様の調査では 84% が前年同期間と比べた寺院収入が「減少した」と回答している。後継者不足から、2040 年には無住寺院がさらに 1 万ほど増えると試算している (鶴岡、2021)

### 高度経済成長期

高度経済成長期 (1950 年代半ば~1970 年代半ば) における都市部への人口移動によって、地方に「過疎化」が生じた。日本の仏教寺院の多くは檀家制度に基づき、主に地域に住む檀家の人々を対象として布教活動、葬儀・法事などの儀礼執行を行っている。その一方で寺院は檀家からの経済的支援を受けてきたことから、地方からの人口移動は寺院に大きな影響を与えることとなる。(名和、発行年不明)

## 役割の独立



## 銀行員経験を活かしたお寺再興計画

河原町三井ガーデンホテル京都河原町浄教寺住職 光山公毅氏

父方の祖父の実家である浄教寺の後継者がおらず、長年務めていた銀行を辞めて住職になることを決意した。銀行で融資の担当をしていた経験を生かして、事業プランを設計し、寺とホテルを一体化させるという斬新なアイデアを見事実現させた。改築時に本堂をバリアフリー化したり、朝のお勤め体験を宿泊者にしてもらうというサービスには、今までお寺に縁がなかった人々を繋げたいという光山氏の思いが込められている。



## 二足のわらじ 若い世代の力に

永観堂幼稚園園長兼末寺住職 榊原功二氏



若い人のほうがいろんなことに思い悩んでるから、そういう人たちにお話をして、心がちょっとでも楽になってくれたらうれしい。



永観堂幼稚園ホームページ <https://www.eikando.ed.jp/event/>



永観堂幼稚園は 1930 年に設立され、今年で 94 周年となる。榊原氏は平日は園長の仕事をして、休日は滋賀県にあるお寺で住職の仕事をごこなしている。15 年間の主事職を経て、園長に就任。今年で 3 年目となる。仏教教育を通して子供たちに命の大切さを伝えることを大切にしている。また幼稚園児の保護者に向けて、お話をする会を開催。若い世代のひとに向けて、仏教の教えに触れる機会作りにも注力している。

## IT 駆使 僧侶派遣サービス

善照寺住職三原貴嗣氏：2015 年に「へんもぶろぐ」を開設し、仏教の教えや作法をわかりやすく伝える。2020 年に法話のできるお坊さんを探せるサイト「布教使.com」を開設。IT の普及が進まないお坊さん業界において、IT 技術を活用した情報発信やお坊さんのプロモーションの助けを行う。形態は対面から Web に変化したが、昔からの「何でも相談屋さん」というお坊さんの側面を継承しながら、人々と寺院・お坊さんを結びつける役割を担う。



## 有識者の見解 / 今後の展望



正覚寺住職 / ジャーナリスト 鶴岡秀徳氏

今後、お寺はますます減少の一途を辿るだろう。お寺が減少することで、「仏教の衰退」や「信仰心が薄れた」など、“仏教文化が日本から消えた”と捉えがちである。しかし、正覚寺住職 鶴岡秀徳氏によると、お寺の減少は仏教の衰退を指しているわけではないという。仏教の本質は「教えを説く」事であり、お寺の存続にこだわらなくても、仏教の教えは残っていくだろう。

本福寺住職 栗山了宣氏は、お寺の減少に目を向けるのではなく、仏教の教えそのものを継承していくことが重要だという。お寺は「人々の生きる力になる場所」であり、人々がそれぞれの人生を生き抜くために仏の知恵・生きる道を伝える「道場」である。お寺がなくなると教えそのものがなくなるというわけではない。後継ぎがないことでお寺として機能しなくなった場合にも、吸収合併あるいは分散することで檀家さんを引き受けるような形になっても、教えの継承は持続していきたい。



本福寺住職 栗山了宣氏

## まとめ

- ①寺院の収入、兼職をしている割合を示すデータから、寺院運営の収入だけで生計を立てていくことの難しさが伺える。
- ②社会的背景と結びつきながら、寺院を取り巻く環境やその役割が変化している。お寺が担っていた多様な役割がそれぞれ専門化し、現在ではお葬式などの特定の分野に限られている。
- ③従来の寺院の形や役割にとらわれることなく、新たな取り組みを進めることで寺院の存続、そして寺院の新たな価値の創出につながっている。
- ④家とお寺のつながりが薄れてしまっている現在において、「個」に対して宗教がどのように向かい合うか、苦悩を抱え生きる活力を得ようとする人々とのように繋がり、教えを伝えていくかがとても重要である。

### 参考文献

- ・名和清隆. (2014). 地域変動と仏教寺院——特に「過疎化」による寺院への影響—— [https://doi.org/10.5845/bukkyobunka.2014.23\\_L15](https://doi.org/10.5845/bukkyobunka.2014.23_L15)
- ・鶴岡秀徳. (2018). 仏教抹殺 なぜ明治維新は寺院を破壊したのか (文春新書 1198)
- ・鶴岡秀徳. (2021). 国は見殺し「コロナでお寺がほとんど消滅」で国民が被る深刻な影響. PRESIDENT Online. <https://president.jp/articles/-/45318?page=1>
- ・鶴岡秀徳. (2015). 寺院消滅 - 失われる「地方」と「宗教」 -
- ・文化庁. (2014-2023). 宗教年鑑. [https://www.bunka.go.jp/tokei\\_hakusho\\_shuppan/hakusho\\_nenjihokokusho/shukyo\\_nenkan/index.html](https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/hakusho_nenjihokokusho/shukyo_nenkan/index.html)